長洲町立長洲小学校　校長便り　No.４７

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年１１月７日(月)

【雑感】

コロナ禍にありながらも、子供達も先生方も真摯に頑張ってくれています。感謝しかありません。とは言え、人の心と体が直接ぶつかり合う場所ですから、当然のことながら問題は発生します。問題解決のために私達大人が持っておきたい視点、私は２つあると思います。１つ目は「善悪の判断」という視点。物事は単純に考えることで解決策が見えてきます。「ダメなものはダメ」、「せにゃんことはせにゃん！」当たり前のことです。２つ目は、「Build Back Better」という視点です。問題の火消しだけではなく、課題を解決して、より良い状態に戻していくことが必要だと思います。けんかやいじめが起きた時、「けんかやいじめはダメです。」と、言い聞かせることは日常的に行っていますが、更にその先のより良い関係性を目指して努力することが必要です。その為には、教師と子供だけでなく、教師と保護者、保護者と保護者が手を取り合って問題解決に向かって建設的に話し合うことも必要なのです。

熊本県学力調査に向けて

１２月２日（金）に、熊本県学力調査が実施されます。この問題は従来の一問一答式とは違い、問題場面を詳しく記述してあり、図表等の情報も多く、その中から必要な情報を子供達が取捨選択し、活用することで問題が解けるようになっています。ということは、逆に言えば問題文を読み、題意と求められていることを理解していなければ解けない問題だとも言えます。

学習指導要領が目指す、育成すべき「資質・能力」として３点が挙げられています。

１「知識及び技能が習得されるようにすること。」
２「思考力、判断力、表現力等を育成すること。」
３「学びに向かう力、人間性等を涵養すること。」

これらは、今後子供達が支えていかなければならない社会や、予測困難な未来社会に生きるために身に付けておかなければならない力を表しています。更に子供達にこの様な資質・能力を育んでいくために、学びそのものを変えていかなければならないのです。子供達は質の高い学びを実現し、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、そして私達教師は授業の工夫・改善を重ねていくことが望まれているのです。文科省はこれからの学びを「主体的・対話的で深い学び」としており、長洲小学校では対話を含むところの学びや授業改革を実践しています。

学力調査の問題は「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を総動員しないと解けない問題が多いのです。しかも、その学びは未来社会に繋がっていくということです。①学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むこと、②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めること、③学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることが問題に活かされるのです。時代や社会が変わり、求められる資質・能力も変わり、それに伴って、必要な学びのスタイルも変わっていくのです。

シリーズ「自分を語る」＃４７

夏休み明けのある日、子供達に敢えて問いました。「ナイトハイクを完歩した人、どんな気もちでしたか。途中で車に乗った人、今どんな気もちですか?」子供達にはちょっと酷な聞き方だったかもしれません。しかし、この話をした時に私は子供達の反応はすでに想定していました。再挑戦のための「揺さぶり」だったのです。案の定、子供達の反応は２つに分かれていました。完歩できなかった子供達の心情に配慮しながら、完歩した子供達が上から目線にならぬ様に「全員が歩き通す」ためにどのようなことが必要かを考えさせました。子供達からは「もっと体を鍛えないとだめだ。」とか、「絶対に車に乗らないという強い気持ちが必要だ。」等の意見が出されました。この時点で、子供達はまだ、再挑戦できるなどとは思っていません。一般的な意見しか出なくなってきた頃、私から、「再挑戦する気があるか?」と聞いたところ、始めはポカンとしていた子供達でしたが、「もう一度歩くんですか?」「いつ歩くんですか?」「今度は絶対歩き通す！」等の声が聞かれるようになりました。実はこの話をする段階で私には戦略ビジョンが描かれていました。保護者の方々からも早い段階からリベンジの要求が出ており、前回よりはすでにモチベーションは高い状況にありましたし、実施する季節的には春、時間帯は夜ではなく昼の時間帯なので、比較的計画はしやすいと見ていました。他の先生方や保護者、子供達と何度となく話し合いを持ち、実施は春休みとなりました。卒業式の翌日という凄いスケジュールです。それでも、子供達も保護者もやる気満々でした。

再挑戦までに約半年の時間があります。目標達成に向けて、ゆっくり確実に活動を開始しました。この時、子供達が決めた学級のルールを幾つか紹介します。①「平日は雨の日以外毎日朝から運動場１０周」…、これは当たり前と言えば当たり前ですが、半年続けるということに意味があります。継続は力なりと言いますが、精神的にも強くなる取組です。ここから先のルールがこの時の子供達が凄いところです。ナイトハイクの時の見えざる課題を克服するために設定されたルールです。②「一生懸命やっている人を笑わない、責めない。」…これは、実際に歩いている時に感じたことだそうです。③「どんな仕事でも協力してやり遂げる。」…これも、１人よりも２人、２人よりも３人ということを real に感じたからだそうです。このような決まりを自分達で設定し、沸々とたぎるエネルギーと結束を感じながら、早々に時間が過ぎていきました。

ナイトハイク再挑戦まで半年、子供達のモチベーションが下がらないかと心配していましたが、そんなことはどこ吹く風で、黙々とランニングや多くの活動に積極的に取り組み、私は担任として学級集団のベクトルが同じ方向に向いている時の心地よさを感じていました。当時のことを振り返ると色々なことがスムーズに進み、正に「とんとん拍子」という言葉がぴったりでした。運動会、学習発表会、多くの展覧会、学習のまとめ…、（プライベートだけはうまくいかなかったのですが…）行事や学習で結果を出す子供達を、私は褒めるだけでした。褒めると子供達は更に頑張ろうという気持ちになり、少しずつ高みに上っているという感じでした。

ここから卒業式まで、心地良い教育活動が展開できました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）